

東葛しぜん観察会

バス 1 泊研修会 玉原高原と赤城自然園

日 時：2019 年 6 月 16 日(日) 7 時集合～17 日(月) 17 時 20 分 解散

参加者：25 名、担当：藤田、草野、渋谷、三嶋

出発の朝は心配していたお天気も回復し、「玉原は地理的には太平洋側だけれど、気候は多雪の日本海側」「ハイヌガヤ、ツルシキミ、エゾユズリハなど日本海側特有の常緑低木が見られる」と学びながらバスは玉原に向かいました。ところが高速を下りて標高が上がるにつれて雲が近づき、いよいよ現地に到着すると、なんとそこは雨雲の中！ポツポツ雨の降るなかを雨天装備で出発しました。今年芽生えたブナの赤ちゃんや、たくさんのギンリョウソウを見つけながらゆっくり登り、以外にも虫もいっぱい見つけて観察、ゆっくり標高をかせぎブナ平に到着しました。

期待は裏切られ、いつの間にか雨は本降りとなっており、肌寒さも感じながら、傘をさして立ったままのお弁当タイム！！ブナの幹のエゾハルゼミの骸の上を滝のように雨水が流れていました。北側が開けた尾根のところではついに土砂降りで、気持ちは少しくじけながらも、ヒトツバカエデ、アサノハカエデ、テツカエデなど東葛ではなじみのないカエデを観察しながらコースを下っていくと、やがて雨は小降りとなり、湿原ではみごとにウラゲコバイケイの群落が迎えてくれました。

この日の天気を振り返ってみれば、日本海側気候である山の上は本降り、沼田側に少し下れば太平洋側気候で晴れという、天候の境目の場所をぐるっと歩いてきたということのようです。後日 H さんから「翌朝雨模様の玉原から南下した赤城は快晴で、まさに太平洋側気候に向かっていくバス移動、分かってみるとその変化が面白かった。1 日目が雨だったことを残念がる方が多いようですが、太平洋側に位置しながら日本海側気候区にあることを身をもって理解出来た、とても恵まれた天候下での研修会だったと思います。」との感想もいただきました。「研修のメインテーマを身をもって体験できた、素晴らしい思い出深い研修 1 日目」というコトにしておきたいと思います。



雨の中 玉原高原「ぶな平」で立ちながら昼食でした

その晩はもちろん星空観察はかなわず残念でしたが、そんなときのために有志がミニレクチャーを用意してくれていました。H さんの「ツバメ～明日から違って見えてくる?」、K さんの絵本の紹介、T さんの「カメムシのお母さんってスゴイ!」、S さんの「セミのトゲ」(往復のバスで K さんのサクラにまつわる話、S さんの「私の発見」、S さんのちょっと不思議な光の話も)。一杯やった後の脳みそで聞くのはちょっと勿体なかったのですが、ご用意下さった皆様ありがとうございました。(渋谷)

その晩は雨風の音が激しく何度か目が覚めてしまいました。早朝散策に出かけようと外に出たら、玄関前の温度計はなんと 8℃。冬の寒さです。衣服を着込み歩き始めると昨夜の風で木々の葉や小枝がそこそこに落ちていました。ウグイスの鳴き声を聞きながら、風で落ちた葉を拾ったり道路わきの木や草を見たり鳥の姿を探したりしながらミズ

バショウ群生地の案内板の所まで行きました。下見で見たミズバショウの葉が見る影もない程大きくなっていました。頭上には鳥たちのにぎやかな声がして、キビタキやエナガのように思いましたが、10 数人が双眼鏡を手に見上げてその姿を確認することは出来ませんでした。

朝食後赤城自然園に向かいました。山を下って行くと、上空にあった雲は取れさわやかな青空が広がってきて、今日の観察への期待が膨らみました。自然園ではベテランのガイドさんに園内を案内していただきましたが、申し込み時に自然観察会のメンバーであることを伝えてあったので、案内の内容が一般的な花や樹木についての説明ではなく、そういうことはみんなが既に知っていると思われたのか、自然園開園のいきさつや、今のような姿になるまでの取り組みなどの話が多かったです。



園に入るとすぐに目に付く大きなヤマボウシはここに自生していた木ではなく他から移植されたもので、園内に多数あるヤマボウシも各地から移されたので地域性があり、花の付き方や大きさ、咲き出す時期が同じではなく結果的に長い間花の姿が見られるという説明がありました。それはカタクリなどの山野草にも言えるようで自然園とは言っても人工的に作られ、来園者に楽しんでもらうという目的にかなっているようでした。それでも山野草 550 種、樹木 150 種という規模はいろいろな植物や昆虫を観察して楽しめる所でした。

散策路を歩きながら来園者に植物を説明する時に心がけていることなどを聞きながらマツカゼソウ、オオカメノキ、ノアザミ、レンゲショウマ、シャクナゲ、テンナンショウ、オオバボダイジュ、アオハダ、マルバノキ、カヤ、ウグイスカグラ、ハナйкаダ、クリンソウ、キジムシロ、ヤナギラン、クガイソウ、ナルコユリなどを見ていきました。

それから園内にはコナラとアカヤシオの同居、アカヤシオやシロヤシオ、オオバボダイジュなど本来の生育地と条件が違うこの場所で生えている木々は何年もかけ環境に適応するように育ててきたこと、園内を流れる清流は自然の流れではなく火山礫地に深くボーリングをして水を汲み上げ、大きなタンクに貯水して循環させていること、アサギマダラのマーキング体験をしていることなどの説明もありました。

赤松林とオオヤマレンゲの花を見てから昼食を摂りその後は自由行動での観察になりました。集合時間まではたっぷりの時間がありましたが、自然生態園を中心に植物や昆虫を観察しているといくら時間があっても足りない程でした。昆虫館の前のトンボ池では岸の木や草の先に産み付けられたモリアオガエルの大きな卵塊を初めて見ました。親はどこにと探しましたが姿は見えず声だけが聞こえました。また、キラキラと金属のような光沢をしたミズスマシがたくさん泳ぎ、水面を飛び跳ねるように泳ぐオオアメンボも見られました。とそこでオオアメンボがイトトンボを捕まえたかと思ったら、別のオオアメンボが横取りに来るといふドラマが展開され目を凝らして見入りました。ただ、良く手入れされた園内ではありましたが、虫の姿、鳥の声は少なかったように思いました。

今回は雨の中での観察もありましたが、全体にユックリした時程で行動できたことは良かったです。(草野)